

-2 中小病院・診療所：診療所プログラム例

到達目標：診療所の役割(病診連携への理解を含む)について理解し、実践する。

概説

中小病院臨床研修プログラムでは、地域医療における「かかりつけ医」の役割と地域における医療、保健、福祉の連携への関わり、診療活動を通して、在宅医療を実施でき、在宅療養を支える他職種との連携や介護保険サービスを理解できる健康診査を実施し、事後指導できる、予防接種を正しく実施できる等を目指している。

具体的に、診療所における月間・週間スケジュール例、学習方略、上記に沿った学習媒体としてのシミュレーションケースとその経過(モデル例)及び指導ポイント、指導医として評価すべき重要なもの及びどのような水準で達成とするかを例示した。

(1) 研修スケジュール例

地域保健・医療研修(診療所)における月間スケジュール例を示す。

1週目	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	オリエンテーション	調剤薬局	在宅医療[訪問診療 同行、ケースカンファ レンス]	在宅介護支援 センター	訪問看護 ステーション

2週目	月	火	水	木	金
午前	外来診療	単科診療所	健康診査(実施、実 施後の実習)	リハビリテーション 施設(急性期)	/
午後	健康診査:事業所 [産業医活動同 行、事業所職員健 康指導]	予防接種[乳児健 診・育児相談]	在宅医療[訪問診療 同行、ケースカンファ レンス]	リハビリテーション 施設(急性期)	

3週目	月	火	水	木	金
午前	介護老人保健 施設	外来診療	外来診療	リハビリテーション 施設(介護予防)	/
午後	療養型病床	予防接種	在宅医療[訪問診療 同行、ケースカンファ レンス]	介護保険[要介護 者のケアカンファ レンス参加]	

4週目	日	月	火	水	木	金
午前	休日 診療	/	単科診療所	健康診査 (事後指導)	介護特別養護 老人施設	外来診療
午後	休日 診療		介護保険[介護認 定審査会]	在宅医療 [訪問診療同行]	グループホーム	総括的評価 (医師会)

- オリエンテーションは医師会にて行うが、1日目午後の最後の1時間くらいを当該研修協力施設におけるオリエンテーションにあてる。
- 外来診療は当該研修協力施設で行う。
- 単科診療所とは、研修医の希望する眼、耳等の診療所で行う。
- 健康診査は当該協力施設において行ってもよいし、別の健診・医療機関で行ってもよい。
- 予防接種、乳児健診、育児相談も上記健康診査と同様に行う。

(2) 具体的な指導方法の例示

地域保健・医療研修(診療所)における各テーマの週間スケジュール例に沿った学習方略を例示として設定した。

上記に沿った学習媒体としての、シミュレーションケースとその経過(モデル例)及び指導ポイントを例示した。

例示として、a)在宅医療、b)介護保険、c)予防接種、d)健康診査の4つをあげた。

関連する到達目標	
C 特定の医療現場の経験	
< 予防医療 >	食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。 地域・産業・学校保健事業に参画できる。 予防接種を実施できる。
< 地域保健・医療 >	診療所の役割(病診連携への理解を含む)について理解し、実践する。

a)在宅医療

研修方法(方略)		
主な研修場面	指導医としての指導内容	指導方法(媒体を含む)
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅で診療可能な疾病や医療内容を説明する。 • 在宅医療を支える地域医療資源の役割を説明する。 • 在宅医療における病診連携の重要性を説明する。 	プリント
訪問診療	<ul style="list-style-type: none"> • 他家訪問のマナーを指導し、在宅診療における基本診察について実地経験させる。 • 訪問看護師との連携をしながら、療養環境を把握させる。 • プライバシー保護に注意する。 	協力患者、家族 協力訪問看護師
ケースカンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> • ケースに関係する職種の役割を説明できるよう指導する。 • ケースについての特徴を説明できるよう指導する。 	
講義	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅医療における調剤薬局の役割を説明する。 • 在宅介護支援センターの役割を説明する。 • 介護老人保健施設ことにデイケアの役割について説明する。 	プリント
各関係施設	<ul style="list-style-type: none"> • 上記講義の施設を実地研修する。 	協力施設

b)介護保険

研修方法(方略)		
主な研修場面	指導医としての指導内容	指導方法(媒体を含む)
オリエンテーション	介護保険制度を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> • 意義 • 対象者 • 介護認定の流れ • 認定審査会の役割 	プリント

	<ul style="list-style-type: none"> • 主治医の役割と主治医意見書の意義 • ケアマネジャーの役割 • ケアカンファレンス • 在宅及び施設介護サービス 	
講義	認定審査に役立つ、主治医意見書の書き方を理解させる。	マニュアル
実習	実際に意見書を記載し、記載のポイントを確認させる。	協力患者
認定審査会	認定審査会を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> • 構成人数、職種 • 審査会資料 • 審査の進行 • 主治医意見書の取り扱い • 審査以外の意見の付記 	
ケアカンファレンス	関係職種、とくにかかりつけ医とケアマネジャーの連携の重要性を理解させる。 実際に行われているミーティングに参加させ、医師としての意見を発言させる。	協力施設
各関係施設	地域の介護施設を述べることができるように指導する。 介護保険における施設サービスを具体的に説明できるよう指導する。	協力介護施設

c) 予防接種

研修方法(方略)		
主な研修場面	指導医としての指導内容	指導方法(媒体を含む)
オリエンテーション	<p>個別予防接種の種類を列挙できるようにする。 法律による予防接種と任意の予防接種が区別できるようにする。 予防接種の実施に伴う具体的注意を列挙できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 母子手帳(小児の場合)の確認と記載 • 予診の重要性 <ul style="list-style-type: none"> • 体温、説明書の事前確認、発育歴、当日の体調 • 1ヵ月以内の病気・予防接種、既往歴、過去の副反応 • 小児の場合、接種及び行政への報告に対する保護者の同意 • 生ワクチンと不活化ワクチンによる接種間隔 • 接種の禁忌 • 接種部位、皮膚の消毒、針の深度 • 接種後、当日の注意 • 副反応の種類と症状及び対処の方法 <ul style="list-style-type: none"> • 健康被害発生時の対応と救済措置の内容を述べられるよう指導する。 	ガイドライン
予防接種の実施	<p>予診票、母子手帳の確認ができるように指導する。 接種の可否が判定できるように指導する。 小児については、保護者に判り易く説明し、同意がとれるよう指導する。 母子手帳に正しく記載できるように指導する。 接種後の観察が正しくできるよう指導する。</p>	協力患者・保護者

d)健康診査

研修方法(方略)		
主な研修場面	指導医としての指導内容	指導方法(媒体を含む)
オリエンテーション	地域や職場において実施されている各種健・検診が列挙できるように指導する。 地域医療機関で個別実施できる健・検診を列挙できるように指導する。 住民基本健診における健診項目が列挙できるように指導する。 健診において使用する機器(レントゲン、心電図等)の操作を理解させる。 健・検診の判定基準が説明できるように指導する。 行政の行っている健康教育や健康サービスを列挙できるように指導する。	プリント 行政の案内
健診の実施	住民基本健康診査の実施を通し、要点を再確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーへの配慮 ・問診、基本的身体診察 ・検尿、採血、心電図、胸部レントゲン撮影(電圧、電流、照射時間) 	協力患者
健診の実施後の実習	レントゲンフィルムの現像や健診データの記入が適切に行えるよう指導する。	看護師、事務員
講義	検査項目の基準値を述べられるよう指導する。 食事、運動療法の具体的指示ができるよう指導する。	検査値ハンドブック
事後指導の実施	検査の異常値を述べさせる。 健診結果を判り易く説明させる。 健診者の生活に即した栄養指導、運動指導をさせる。 行政の行っている健康教育や健康サービスへの参加を促す。	協力施設
事業所	産業医の事業所訪問に同行。 事業所健診における、有所見者に対する説明・指導を実施する。	協力事業所職員
学校	学校医の学校訪問に同行 児童生徒、教職員健診における、有所見者に対する説明・指導を実施する。	協力校

a)在宅医療

シミュレーションケースとその経過(モデル例)	指導のポイント
85歳の男性。1年前に脳梗塞を発症。右片麻痺。要介護2度。1ヵ月に一度訪問診療を行っている。最近経口摂取量の減少、四肢筋力の低下が目立ち、ベッド上での生活が増加していた。家人より昨日電話があり、仙骨部、背部に発赤があるとのこと。本日が訪問診療にあたる日のため同行となる。訪問看護サービスは現在利用していない。	訪問診療前に行うこと <ul style="list-style-type: none"> ・患者の病状の把握(病名、投与薬剤、直近の検査値等) ・要介護度の確認 ・主治医意見書の写しの確認 ・居宅事業所(ケアマネジャー)の確認 ・ケアプランの写しの確認(関与在宅サービスの種類と時間) ・後方支援病院の確認

訪問診療に同行した。	診療の場が他家であることに留意し、患者・家族に配慮することを理解。 <ul style="list-style-type: none"> ● 家族よりの適切な患者情報収集 ● 基本的身体診察
診察の結果、1ヵ月前に比較して栄養状態が悪化していた。仙骨部、背部の発赤は1度の褥創であった。	低栄養の評価 <ul style="list-style-type: none"> ● 採血による血清アルブミン値等の確認
家族への説明・指導と関係職種への連絡を行った。	家族への説明と指導 <ul style="list-style-type: none"> ● 褥創発生の機序(低栄養、同一体位、不潔等)と対応(体位交換、清拭、おむつ交換等)
ケアマネジャーと訪問看護ステーションに現在の状態を連絡、今後の方針を相談・指示した。	関係職種への情報提供及び指示 <ul style="list-style-type: none"> ● ケアマネジャーへの連絡 ● 現在の状態(低栄養、褥創)の報告 ● ケアプランの変更依頼(訪問看護、エアマットの導入) ● 介護保険における要介護度の区分変更申請の依頼(介護の手間の増加に伴い、訪問看護ステーションに連絡) ● 現在の状態(低栄養、褥創)の報告 ● 訪問看護の指示(回数、処置等)及び指示書記載。

b)介護保険

シミュレーションケースとその経過(モデル例)	指導のポイント
いつも来院している男性患者から、患者の母親85歳のことで相談を受けた。 母親は、患者が日中仕事に行っている間は独居だが、最近物忘れがひどく、鍵や大事な書類を紛失して大騒ぎになる。調理に関しても火の消し忘れや、同じメニューばかり作っている。	患者本人だけではなく家族の相談等にもものというかかりつけ医の役割の理解
認知症の疑いがあることを家族に説明し、診断のために来院してもらった。	家族や本人への精神的影響を考慮しながら病名を告知することの重要性を理解
長谷川氏簡易知能評価スケールを行ったところ、23点と低下していたため、認知症専門医療機関に紹介することにした。	専門医療機関宛てに診療情報提供書の記載
同時に介護保険の申請を勧めるとともに、今後の認定及び認定後の流れを家族に説明した。また、主治医の意見書の記載ができるよう、母親の診察と家族の介護の手間について聴取した。	介護保険制度の理解 <ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険制度の意義が理解できる。 ● 介護保険対象者(年齢、2号被保険者の対象疾病)が説明できる。 ● 要介護度(要支援から要介護5)を列挙できる。 ● 介護申請からサービス受給までの一連の流れを説明できる。 在宅における介護サービスの理解 <ul style="list-style-type: none"> ● とくに認知症を有する要介護者に必要なサービスが理解できる。 ● 要介護認定後のケアマネジャーの役割が理解できる。
保険者より主治医意見書記載の依頼がきたので、記載後返送した。	介護保険における主治医意見書の意義を理解 <ul style="list-style-type: none"> ● 認定審査に役立つよう、介護の視点で意見書が記載できる。 ● 認定審査の流れ(意見書がどのように利用されるか等)が理解できる。

c) 予防接種

シミュレーションケースとその経過(モデル例)	指導のポイント
2歳の女兒、麻疹の初回接種を希望して来院。	接種前に確認すべきこと <ul style="list-style-type: none"> 母子健康手帳の確認(既往歴、予防接種歴、発育異常の有無等) 予診票の確認(適応年齢、体温、当日の具合、1ヵ月以内の病気、予防接種による副反応の有無等)
接種該当者であることが確認できたので身体診察を行った。	通常の小児基本診察に準ずる。
問題がなかったため、予診票に医師の接種可能のサインと保護者の同意のサイン(接種及び行政への結果通知)をもらった。	保護者の同意の意味を理解
接種を実施した。	接種に伴う留意点の理解 <ul style="list-style-type: none"> 薬液の種類、接種量、保管、期限の確認 接種部位(場所、皮膚の状態、消毒)の確認 針の深さ、血液の逆流の有無の確認
予診票及び母子健康手帳に必要事項を記載した。	予診票(使用ワクチン、実施場所、接種医師名)、母子健康手帳にも同様の記載を確認
接種後のアナフィラキシー等の急性の副反応がないことを15分ほど確認した。	接種後の観察及び医師との連絡体制の重要性の理解
当日の留意点、副反応出現時の対応を説明し、帰宅してもらった。	予防接種後起こりうる副反応の種類と処置の理解 予防接種後の健康被害発生時の対応と救済措置の内容の理解

d) 健康診査

シミュレーションケースとその経過(モデル例)	指導のポイント
62歳男性。退職後2年ほど健康診査を受けていなかったとのことで住民基本健康診査を希望して来院。	自治体の行っている健・検診の種類を理解 診療所で行っている個別健・検診の種類を理解
健康診査を実施。	健診項目を列挙し、問診、診察、検尿、採血、心電図、胸部レントゲン撮影等の実施 <ul style="list-style-type: none"> 胸部レントゲン撮影に関して適正な電圧、電流、照射時間の設定ができる。 撮影したフィルムを現像(暗室での操作、自動現像器操作)ができる。
健診の結果、空腹時血糖115mg、Tchol235mg、TG195mg、血圧145/90と生活習慣病の疑いがあった。	健診の結果から事後指導すべき項目の列挙及び事後の対応 <ul style="list-style-type: none"> 各項目の基準値を理解 院内での指導・治療か、行政等で行っている健康教育や健康サービスと連携するかの選択
生活習慣病の健康への悪影響(動脈硬化や将来の循環器系疾病発症の危険性等)を説明し、食事の注意や運動を指示する。行政の行っている栄養指導、運動教室に紹介した。	分かりやすい言葉で、結果の説明と今後の方針を説明できる。

(3) 評価における紹介と例示

地域保健・医療研修(診療所)において各テーマに沿った評価を例示として設定した。

上記に沿った、指導医として評価すべき重要なもの及びどのような水準で達成とするかを例示した。

地域医療における「かかりつけ医」の役割と地域における医療、保健、福祉の連携への理解が大切である。

指導医として評価すべき重要なもの (以下の点を中心に研修医に指導する)	どの程度できればいいのか(例)
在宅医療を実施でき、在宅療養を支える他職種との連携を理解できる。	診療の場が他家であることに留意し、患者・家族に配慮しながら診察が行える。 在宅療養を支えるサービスを列挙できる。 訪問看護の仕組みを説明できる。 訪問看護指示書が書ける。 ケアマネジャーの役割を説明できる。 ケアマネジャーと連携できる。
介護保険制度における介護認定のしくみと介護保険サービスを理解できる。	要介護度(支援を含む)を列挙できる。 介護認定に必要な書類を列挙できる。 介護に関わる意見を述べた主治医意見書が書ける。 在宅、施設介護サービスが列挙できる。 上記介護サービスの内容を説明できる。
予防接種を正しく実施できる。	医療機関で行う予防接種を列挙できる。 予診を正しく行える(問診、身体診察、適応年齢の確認、署名の確認等)。 正しい方法で接種できる(消毒、接種部位、接種量、針の深度、血液の逆流等の確認等)。 接種後の観察ができる。
健康診査を実施し、事後指導できる。	住民健・検診を列挙できる。 それぞれの健・検診の内容を説明できる。 基本健康診査が実施できる(問診、身体診察、採血、ECG、胸部レントゲン撮影等)。 基本健康診査の結果が判定できる(要医療、要注意、正常等)。 基本健康診査の結果及びその後の対応を受診者に説明できる。

(今村 聡)